

学級活動（２）指導案

2年3組 26名 指導者 出未 淳一郎
尾川 敬子

本実践は、以下の検証を行うものである。

- アンケートをもとに自分が意識している正しい食事のマナーと実際の様子を比較することで、解決すべき課題を明らかにすることができるのではないかな。
- 栄養教諭と連携し、正しい食事のマナーを実践しようという必要性をもたせ、解決方法を自己決定させることで正しい食事のマナーを身に付けようとする意欲を高めることができるのではないかな。

1 題材名 「2年3組、さわやか給食」（学級活動（２）ーキ）

2 子どもの実態

題材に関わる子どもの実態は、次の通りである。

調査実施日：平成24年4月13日（金） 調査人数24名（男子13名 女子11名）

- 食事のマナーはよいですか。
 - ・とてもよい 17名
 - ・よい 7名
 - ・あまりよくない 0名
 - ・よくない 0名
- 普段、食べるときにどんなことに気を付けていますか。
 - ・肘を突かない 8名
 - ・背筋を伸ばす 7名
 - ・足の裏を床につける 5名
 - ・音を立てない 1名
 - ・箸、茶碗の持ち方 1名
 - ・食べながらしゃべらない 1名
 - ・心を落ち着けて食べる 1名

（気を付ける理由）

- ・行儀が悪いから 9名
- ・こぼしたり、汚したりするから 7名
- ・注意されるから 2名
- ・恥ずかしいことだから 1名
- ・肘を突くと姿勢が悪くなるから 1名
- ・癖になるから 1名
- ・のどにつまるから 1名
- ・しゃべるとつばが飛ぶから 1名
- ・心を落ち着けると静かにできるから 1名

本学級の子どもは、食事時の雰囲気は、楽しい雰囲気である。

アンケートの結果から、姿勢や食べ方等のマナーに関する知識を理解している子どもが多く、周りの人のことを考えマナーを守って食事をしているという意識の子どもがほとんどである。しかし、この自己評価と実際の食事の様子には違いがある。器に直接口を付けて食べたり、肘を突いて食べたりするなど、みんながマナーを守って気持ちよく食事をしているとはいえない。

3 題材について

本題材は、他者のことを思いやり共に快適な学校生活を営む上で望ましい人間関係を築き、基本的な食習慣やマナーを守る態度を育てることをねらいとしている。

食事のマナーを守ることは相手の気持ちを思いやることにつながる。そこで本題材では、自らの食事のマナーとその際の気持ちについて振り返る活動を通して、正しい食事のマナーの大切さについて捉えさせたい。また、正しい食事のマナーとその良さについて考えることで、子ども自身がマナーを向上させたいという思いをもたせるようにしたい。このような学習を通して、望ましい食習慣が形成されていくのではないかと考え、本題材を設定した。

4 指導に当たって

本題材は、給食時間をよりよく過ごすためのマナーについて話し合う。この活動によって、みんなが快適に給食の時間を過ごすために自主的に取り組む態度を身に付けることができるようにする。

本時における導入の段階では、食事の良くないマナーの子どもの姿を提示し、アンケートでの意識と実際の姿の違いから課題意識をもたせるようにする。マナーよく過ごしていたつもりが実際は実践できていないことやマナーが良くないと分かっても改善には至っていないことから、「2年3組、さわやか給食」という題材で「食事のマナーについて考える」学習につなげていく。

展開の段階では、給食を食べている時の課題を出し、その原因を話し合い、食事のマナーは「食事の雰囲気を良くしたり、消化を良くしたりする効果がある。」ことに気付かせ、課題解決の方法について話し合わせるようにする。

終末の段階では、みんなで話し合った解決方法をもとに、自己決定したものを、チャレンジカードに記

入させるようにする。自己決定したことを発表させると共に称賛することで、実践への意欲付けをしたい。
事後指導では、本時で自己決定したことをもとに「2年3組さわやか給食、マナーアップ週間」を行うことで、学級全員で実践をしていくようにする。さらに、自己決定したことができたかどうかについて自己評価をさせるようにし、望ましい食習慣を身に付けることができるようにする。

5 評価規準

- 食事の際、正しいマナーで食べようとしている。 【集団活動や生活への関心・意欲・態度】
- 自らの食事のマナーが自他に与える影響や食事を通じた望ましい人間関係について自己の課題に気づき、解決の方法を考え食事をしている。 【集団の一員としての思考・判断・実践】
- 食事の正しいマナーやそれが自他に与える影響について理解している。 【集団活動や生活についての知識・理解】

6 活動の流れ

| | 期日 | 活動内容 | 教師の手立て | めざす子どもの姿と評価方法 |
|----|-------------------|--|---|--|
| 事前 | 4/13 | 1 食べているときの気を付けていることを考える。 | ○ 食べるときに気を付けていることについて、アンケートに記入させておく。 | 【思】食べるときに気を付けていることを、実際の自分の姿を想起しながらノートに書いている。〈アンケート〉 |
| 本時 | 5/18 | 1 普段の自分の食事のマナーやその時の気持ちについて考え正しい食事のマナーについて考える。 2 今後取り組んでいくことを自己決定する。 | ○ 子どもの今の姿を客観的に捉えさせ、なぜ正しいマナーで食べる必要があるのかを考えさせることで、正しいマナーで食べようという子どもの意識を高める。 ○ 学習したことと自らの姿を比較させ、改善点に気付かせた上で、それをどのように改善するか自己決定させる。 | 【知】食事の際の正しいマナーやそれが自他に与える影響について理解している。 【思】なぜ正しいマナーで食べる必要があるのか、考えている。〈観察、ノート〉 【関】これから、正しいマナーで食べていこうという意欲をもつことができている。〈発言、ノート〉 |
| 事後 | 5/21 ～ 5/25 | 1 「2年3組さわやか給食、マナーアップ週間」として、自己決定したことを実践する。 2 自己評価をする。 | ○ 正しいマナーで食べている子どもを称賛する。 ○ 保護者と連携し家庭でも実践できるようにする。 | 【思】自己決定したことを実践している。〈観察、ノート〉 |

7 本時の活動

(1) 目標

普段の食事のマナーとその際の気持ちについて振り返らせ、マナーの意味を理解させ、正しいマナーで食べようという意識を高めるようにする。

(2) 評価規準

- 食事の際の正しいマナーやそれが自他に与える影響について理解し、マナーよく食事をするために取り組むことを自己決定しようとしている。 【集団の一員としての思考・判断・実践】

(3) 指導に当たって

まず、事前に振り返らせておいた食事の際に意識していることと、食事中の子どもの姿を提示し、アンケートでの意識と実際の姿の違いから課題意識をもたせる。

次に、グループで正しい食事のマナーについて考えさせる。「皿を持って食べる。」「肘を突いて食べない。」といった意見が出てくることが予想される。ここでは、なぜそのようなマナーで食事をするのかについて、理由も一緒に考えさせる。その後、栄養教諭から、グループから出た意見について補足説明したり、正しいマナーについての理解を深めさせたりする。

最後に、本時で学んだことと自らの姿を比較させ、今後、自分が取り組んでいくマナーについて自己決定をさせていく。こうすることで子ども自身が自らの行動を変えようと努力し、より望ましい食習慣が形成できるものと考え。

(4) 本時の展開

| 時間 | 活動内容 | 予想される子どもの意識 | ○手立て □めざす子どもの姿 |
|----|--|--|---|
| 10 | 1 普段、食事の際に気を付けているマナーについて確認する。 振り返る | <ul style="list-style-type: none"> ・箸の使い方に気を付けている。 ・姿勢を正しくしている。 ・音を立てずに食べている。 | ○ 子どもたちの食事のマナーに対する意識を確認するため、普段の食事の中で、子どもたちが気を付けているマナーについて、アンケート結果を提示する。 |
| | 2 実際の自分の姿について振り返る。 3 本時のめあてを確認する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・姿勢が悪いな。 ・肘をついて食べている。 ・できているつもりだったのに。 ・きちんとしないとイケないな。 | ○ 給食時に撮影した写真を提示することで、子どもたちの意識と実際の行動に差があることに気付かせ、本時のめあてにつなげる。 |
| 30 | マナーよく食事をするために、自分が取り組むことを決めよう。 | | ○ 本時の活動について、進んで取り組めるようにするため、全員でめあてを確認する。 |
| | 必要性 4 食事の正しいマナーとその理由について考える。 | <ul style="list-style-type: none"> ・なぜマナーは大切なのかな。 ・皿を持って食べよう。 ・肘を突かないぞ。 ・足をきちんと床に着いて食べよう。 | ○ 一人一人の食事の写真から、自分自身の課題に気付かせる。 |
| | 5 正しい食事のマナーについて栄養教諭の話を聞く。 | <ul style="list-style-type: none"> ・正しいマナーは、食事の雰囲気や消化を良くしたりするのだな。 | ○ モデルを示し、正しいマナーとは、みんなが気持ち良く食事をするための方法であることに気付かせる。 |
| 5 | 解決法 6 これから取り組んでいく食事のマナーについて、自己決定をする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・これまで、姿勢が悪かったから、正しい姿勢で食べるようにしよう。 ・皿をきちんと持って食べるようにしよう。 | ○ 正しい食事のマナーとその理由について栄養教諭が補足する。また、正しい食事のマナーが、食事の雰囲気や消化を良くしたりすることも伝えるようにする。 |
| | 7 活動を通じた感想を交流する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・決めたことを、これからしっかり実践しよう。 ・今日から早速正しいマナーで食べよう。 ・みんなが正しいマナーで食べられると、気持ちがいいね。 | ○ 本時で学んだ正しいマナーと、これまで自分の食事の際の姿を比較させ、改善するべき点をワークシートに書かせ、自己決定させる。 |
| | | | 知 食事の際の正しいマナーやそれが自他に与える影響について理解している。 〈ワークシート、発言〉 思 なぜ正しいマナーで食べる必要があるのかを考えている。 〈観察、ワークシート〉 ○ 自らの行動を振り返り、学習した内容を実践化しようとする意欲を高めるため、感想を発表させる。 |